

医療安全管理室の状況

(1) 年間目標

1. 確認行為に対する取り組みを行い、昨年度の誤薬発生率（3.81%）より減少する
2. 医療安全管理マニュアルの5項目の見直しを行う

(2) 主な取り組み

【医療安全推進会議】

- 1) 新型コロナウイルス感染症病棟におけるせん妄患者の対応マニュアル作成
- 2) 搾母乳取り扱いマニュアル作成
- 3) 放射線科、臨床検査科等外来の検査後の転倒予防の取り組み
- 4) 自己血貯血の研修会の開催
- 5) 末梢点滴生食ロックの運用の見直しと生食ロック注の新規採用
- 6) 薬剤併用禁忌薬チェックシステムの改修
- 7) 喉頭鏡のデスポ製品への変更
- 8) 医療安全管理マニュアル「病状説明のあり方」の代諾者の範囲を追加
- 9) 婦人科プロウベス処置の同意書、外科手術同意書26件の作成
- 10) 耳鼻科手術による複視出現時の対応の見直し
- 11) MRI検査時のカテーテル自己抜去予防の取り組み
- 12) 暴力暴言に対する対応の検討

【医療安全担当者会】

- 1) 指さし呼称の啓蒙・指さしラウンド項目と評価者の見直し・ラウンドのフィードバック
- 2) 年4回の研修会開催
- 3) 配薬方法のマニュアルの見直しと動画作成し、統一した方法の周知
- 4) 服薬自己管理チェック表の修正
- 5) 医療安全管理マニュアル、医療機器安全管理マニュアルの追加修正
- 6) 医療安全管理マニュアル、医療機器安全管理マニュアルを電子カルテと院内LANで閲覧できるようにした
- 7) 医療安全研修会の計画・運営
- 8) 院内医療安全情報の発信
- 9) 日本医療機能評価機構からの医療安全情報を院内LANで配信
- 10) 起床時の内服薬の運用見直し
- 11) DIBキャップ装着MRI検査時の対応マニュアル作成

(3) 活動実績

1) 会議・委員会開催実績

委員会等名	開催実績
医療安全推進会議	12回
医療安全担当者会	11回

2) 教育研修実績

(参加人数)

	内 容	担当者・講演者	対象者	医 師	看護師	その他
4 月	新赴任医師・研修医 医療安全研修会	医療安全管理部長 医療安全管理者	新規採用職員	26名		
	新任研修医研修	医療安全管理部長	新規研修医	8名		
	新人看護師研修	医療安全管理者	新規採用看護師		26名	
	新任職員研修会	医療安全管理者	新任採用看護補助者			2名
5 月	育児休暇明け職員研修	医療安全管理者	育児休暇明け職員		4名	
6 月	育児休暇明け職員研修	医療安全管理者	育児休暇明け職員		4名	
	前年度インシデント報告	医療安全管理室長	全職員	92名	472名	213名
7 月	外国人看護補助者研修	医療安全管理者	新任採用看護補助者			3名
9 月	転倒転落について	ユーザイ株式会社	全職員	86名	463名	228名
10 月	中途採用看護補助者研修	医療安全管理者	看護補助者			1名
	新人看護師研修	医療安全管理者	新人看護師		26名	
	中途採用看護補助者研修	医療安全管理者	採用看護補助者			1名
12 月	薬剤科 持参薬処方と中止処方	薬剤師	看護師		347名	
	看護補助者 医療安全研修会	医療安全管理者	全看護補助者			22名
1 月	育児休暇明け職員研修	医療安全管理者	育児休暇明け職員		7名	
	配薬マニュアル動画	医療安全担当者会	看護師		346名	
	中途採用看護補助者研修	医療安全管理者	採用看護補助者			3名
3 月	新任事前研修	医療安全管理者	次年度新規採用職員		16名	4名
	6・7・8月	看護部教育研修（レベル別）	医療安全管理者	看護師	4回開催	

3) ラウンド実績

- ・院内安全ラウンド 1,167回/年
- ・部署定期ラウンド 240回/年
- ・分析事例再発防止ラウンド 76回/年
- ・医療安全地域連携相互ラウンド

富山労災病院（加算①）：9月8日（富山労災病院評価）9月16日（当院評価）

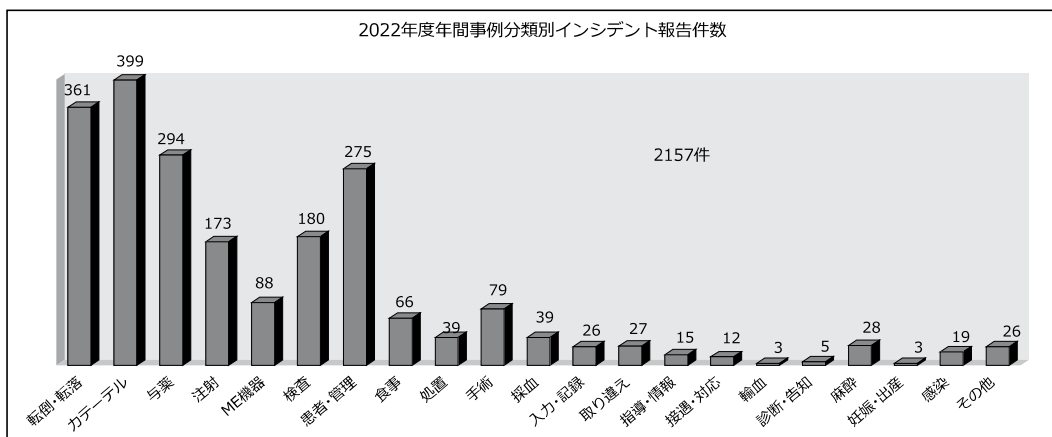
あさひ総合病院（加算②）：12月9日（あさひ総合病院評価）

(4) 目標に対する結果

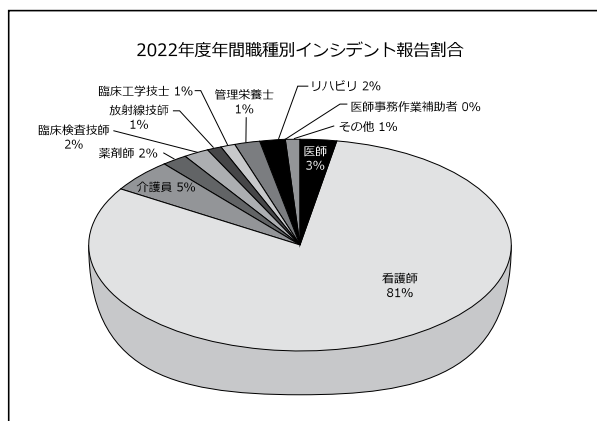
- ・マニュアルに沿った配薬方法を周知して誤薬発生率が減少した
- ・服薬自己管理チェック表を修正し、定期的評価することができ適切な服薬方法に繋げた
- ・医療安全マニュアル、医薬品の安全使用のための業務に関する手順書、医療機器安全管理マニュアルの内容を見直し、適切な内容を維持し速やかに確認することが可能となった

1) インシデントレポート報告

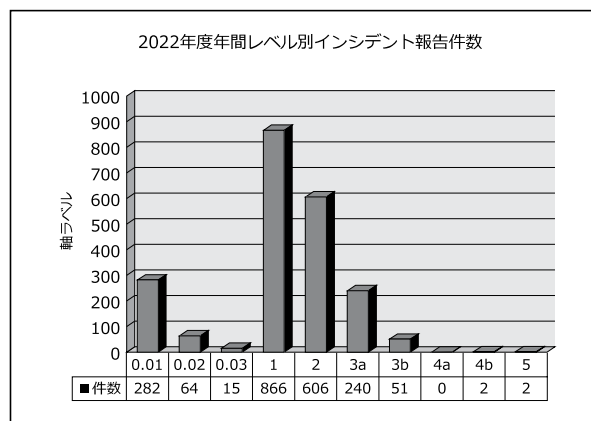
①項目別報告件数（総計 2157件）



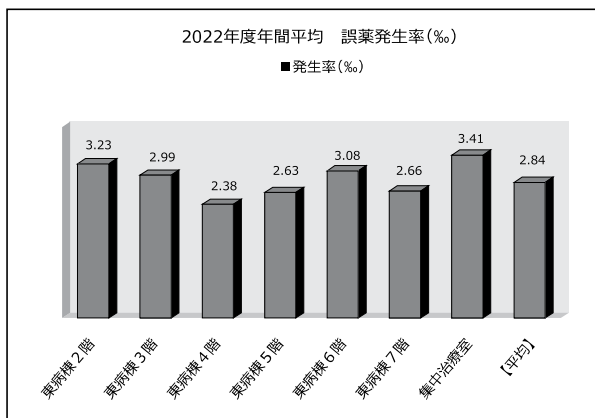
②職種別報告件数



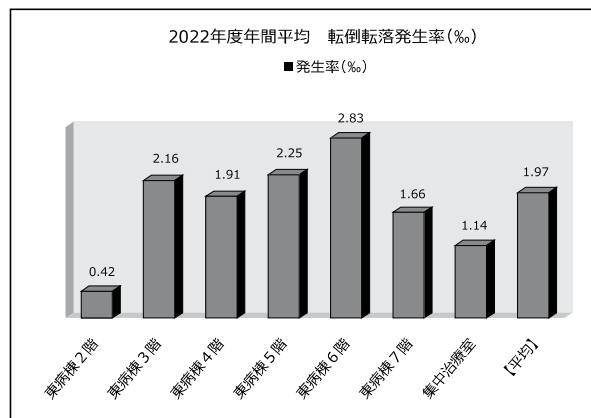
③レベル別報告件数



④誤薬発生率



⑤転倒転落発生率



インシデント報告件数で最も多い転倒転落とカテーテルを合わせると全体の35%を占め、昨年度と変化はなかった。

高齢化を背景に認知症患者も増え、今後も転倒転落やカテーテル自己抜去に対する取り組みが必要である。

転倒転落においては、昨年度より0.31%減少している。高齢化は避けられず転倒による重大事象にならないための取り組みが今後も必要である。

誤薬発生率は0.9%減少しており、配薬方法や確認のタイミングの統一を図ったことも影響したと考える。今後も確実な確認行為の取り組みの継続が必要である。

内服自己管理チェック表を修正し、適切な配薬に繋がるツールを整えたが、今後評価が必要である。